

2. 連立方程式の解き方

◆ 加減法 ... 2つの式を、足すか引くかして、文字を消す方法

(例)
$$\begin{cases} x + y = 4 \\ x - y = 2 \end{cases}$$

2つの式を足し算して $(+y)$ と $(-y)$ を消却したら、 (x) の値が求められる

↓

$$\begin{array}{r} x + y = 4 \\ + \quad x - y = 2 \\ \hline 2x \quad = 6 \\ x = 3 \end{array}$$

$x = 3$ とわかったので、2つの式のうち簡単そうなのは (x) の値を代入して、 (y) の値を求める。

↓

$(x=3)$ → $x + y = 4$ (上の式を選んだ)
 $3 + y = 4$
 $y = 4 - 3$
 $y = 1$

$y = 1$ とわかった。

本当に合ってるか、 x と y を両方代入してその解で成り立っているのか、確認してみる。

$(x=3)$ ↓ $(y=1)$ ↙
 $x + y = 4$ (上の式を選んだ)
 $3 + 1 = 4$... OK. 合ってる。

こたえ、 $x = 3$, $y = 1$.